



大南っ子

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」については、平成28年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

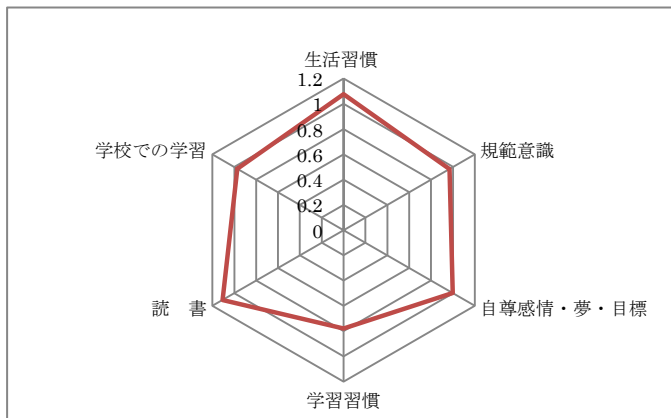
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

学力の定義や捉え方は様々であり、一概に論じることはできません。この学力調査もそのときの学力の一部を表しているに過ぎませんが、この結果も客観的な指標の一つであると考えます。本校では調査結果も重視し、今後も効果的な指導や学力向上につながる教育活動が実践できるように努めてまいります。ご家庭でも家庭学習チャレンジハンドブックなどを参考にされ、お子様の学習をご支援いただけましたら幸いです。

1. 教科に関する調査結果の概要

カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	漢字に対する読み書きについては、力を伸ばしつつある。ローマ字の読み書きは、基礎的基本的な力として学習を繰り返す必要がある。	下回っている
国語B	自分の考えを書いたり、相手の展開に沿って質問したりすることに課題がある。自分の考えを持つこと、文章で表現する力を伸ばす必要がある。	下回っている
算数A	数と計算においては無答率0が多く、基礎的基本的な力がつきつつある。数量関係において、知識理解の定着を図る必要がある。	わずかに下回っている
算数B	数量や図形についての知識理解、技能面において力を伸ばしている。式や数量の意味、正しくない理由など、記述問題に対する力を付ける必要がある。	上回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・ テレビやDVD、ゲーム等の接触時間（2時間以下）の割合が(25.3%→41.0%、51.6%→59.0%)大きく増加している。しかし、普段（月～金）11時以降に寝る児童の割合が14.1%ある。
- ・ 家庭学習を1時間以上する児童の割合は41%で、昨年の27.5%に比べ飛躍的に伸びた。しかし、県や国の60%を超える状況には遠く及ばない。
- ・ 学級経営、学年経営に力を入れ、人と関わりよさや価値に気付かせ、チームとして力を伸ばしていく具体的な取組に力を入れる。

3. 調査結果から明らかになった課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

- ・ 朝の学習タイムに基礎的基本的な力【読む・書く・計算する】を、児童の実態に応じた問題させることを通してつけている。・ 個人思考【自分の考えを持つ】⇒集団思考【考えを深める】を、1時間の学習の流れに位置付けるようにする。・ めあて、まとめを必ず板書し、ノートは見開き1ページで使うようにする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・ 毎日、どの学年も必ずプリント1枚【表裏 算数・国語】の宿題を出す⇒全保護者に周知済
- ・ 宿題プリントはその日のうちに○をつけ、やり直しをさせ、返す。宿題忘れも必ずその日のうちにさせ、提出させる。
- ・ 手本となる自主学習ノートを掲示するなどして、発展的な学習とその仕方を紹介し、推進する。